

令和6年度「市民と市長とふれあい対話in大島北高校」での主なご意見と市の対応

2025.3						
No.	地区	項目	意見要約	市長回答 (NO・I以降については所管課回答)	所管課	所管課補足
1	大島北高	高校生の遊びについて	市長が高校生だとしたら、どこに遊びに行きますか。	私が中学生時代には大浜海浜公園に自転車で行くなどしていました。バスを利用すればいろいろな所に行けると思いますが、主に自然を体験しに遊びに行くかと思います。笠利町で好きな所は用岬(笠利崎)です。いつ行っても風景が変わらない、東シナ海と太平洋を望める島内で唯一の場所ですので、私もよく行っていました。		
2	大島北高	Instagramについて	Instagramのアカウントを乗っ取られた時はどんな気持ちでしたか。	正直なところ、びっくりして焦りました。原因についてはSNSで発信したところですが、あっという間に乗っ取られ、悪用されることも懸念されますので、大変焦りました。幸い4時間程度で復旧して、被害はほぼなかったところですが、皆さんには同じ思いを味わってほしくないなので、ぜひ皆さんも「2段階認証」をするようにしていただければと思います。		
	大島北高	子育て政策について	子育ての政策はよく行っていると思うのですが、産婦人科などがないことについての対策はありますか。	昨年から民間の産婦人科が閉鎖されております。このため、県立大島病院に助産師を増員しており、かつて出生数が年間600例程度でしたが、現在は300～350例程度と伺っており、産婦人科を選べない部分ではありますが、しっかりと産婦人科を維持できていることは良いことかと思えます。産婦人科だけでなく、個人病院も減っているところですので、新年度、関係する皆さまと医療懇話会を実施し、若い医師が勤務・開業していただくためにどのような手立てがあるか、検討してまいりたいと思います。また、笠利町在住の妊婦検診などについて、交通費や受診料の助成を行ってまいりますので、少しでも安心して産み育てられるよう、市も支えてまいりたいと思います。	いきいき健康課	補足なし
3	大島北高	認定こども園について	認定こども園を笠利町で設立していますが、笠利町は集落の文化が保育所にもとても影響しています。それぞれの保育所を合併することによって、地域文化を幼少時に継承できなくなる可能性があると考えられますが、どのようにお考えですか。	笠利町内にある保育所を集約して、太陽が丘に認定こども園を設置するため準備を行っており、1年後の4月に完成、オープン予定です。背景としては、子どもの数の減少もありますが、保育士が不足しており、施設を集約して運営を行うところとです。多くの皆さまに検討いただき、現在の方向性に決まったところであり、公立の保育園は3つ程度になるかと思えます。地域の伝統や文化を守るために、新たな認定こども園や既存の保育園、小学校などで引き続き、行政と地域でしっかりと連携して取り組んでまいりたいと思います。	地域教育課 いきいき健康課	補足なし
4	大島北高	学校の勉強について	学校で勉強についていけない子供たちへの対応について、奄美市はどんな取り組みをしていますか。	今、奄美市が力を入れているのが、小中学校において一人1台タブレットを支給し、AIドリルを使い、自分の習熟度に合わせた宅習や宿題などにより、学習の機会を確保し、一人ひとりに合わせた指導が行えるよう取り組んでおります。各学校タブレットを持ち帰ることなども取り組んでおりますが、まだ100%までは至っておりません。また、名瀬の方では、こども食堂など民間団体と連携して宿題を教えるなどしているところです。	地域教育課	補足なし
5	大島北高	節田地区のホテルについて	節田地域に高層ホテルが立つことで、地域に水の供給やイザリが減ると心配されます。近隣住民からの反対意見があると思いますが、どのように対策を考えていますか。	私の立場として、賛否を示すことはできませんが、水の供給に関して、市が責任をもって各家庭などに供給を行っており、水道法によって規定もあり、市は特段の理由がない限り、事業所などからの要求を拒むことはできないこととなっております。周囲に影響のない範囲で、水の供給は行わなければなりませんので、水道の使用に関する計画など、きちんと精査・見極めた上で、肅々と対応していくものと考えております。イザリに関して、漁業権などもありますので、市民の皆さまにはしっかりと手続きを行っていただくとともに、ホテル建設予定地はイザリのために海へ下りていく場所ではないと聞いておりますが、万が一イザリなどを行う場合は、ホテル側との話し合いで折り合いをつけていただきたいと思います。	水道課笠利分室 農林水産課	補足なし

No.	地区	項目	意見要約	市長回答 (NO11以降については所管課回答)	所管課	所管課補足
6	大島北高	自然環境の保護について	地球温暖化によって奄美のサンゴ礁などに影響が出てきていますが、世界自然遺産の奄美の自然を守っていくために考えていることはありますか。	北高の生徒の皆さんは日頃から環境美化意識を持って取り組んでおられると思います。奄美市の温暖化対策や自然環境を守る取り組みは様々行っているところですが、例えば野ヤギ対策、外来種の駆除、希少な動植物を守るためのモニタリング、オニヒトデの駆除、野ネコ対策などです。また、希少な自然環境を守るため、金作原原生林や三太郎峠において自主ルールを設けて、運用を行っているところです。奄美市においては、宿泊税などを自然環境保護に使うなど、新たな仕組みを検討しているところです。また、ビーチクリーンで集めたプラスチックをリサイクルしてTシャツを販売するなど、循環型の取り組みも行っていきたいと考えております。	市民課	補足なし
7	大島北高	バスの定期代補助について	バスの定期代の一部を奄美市から補助していただいていて、とてもありがたく思っているのですが、補助額を上げていただくことはできますか。	名瀬から北高に通う生徒さんには以前より補助を行っていましたが、令和3年から、笠利から名瀬の高校に通う生徒さんにもバスの定期代を補助しております。どちらも3分の2を補助しております。町村内に高校がない自治体においては、国から補助金をもらうことでバス代を全額補助しておりますが、奄美市は国からの補助金がない中、3分の2の補助を行っているところです。今後は、国の制度の状況も勘案して、検討してまいりたいと思いますので、ご理解をお願いします。	地域教育課	補足なし
8	大島北高	バスの本数について	今年度からバスが減便され、バス通学生の下校時間が早まるなど学校生活に影響が出ています。バスの本数を増やしたり、市営バスを走らせたりするといった対策はできないものでしょうか。	路線バス本数の減少については、市でも全体として起こっているところですが、主に運転手の減少や働き方改革が影響しているものと考えております。生徒の皆さんにも不便や支障をきたしていると思いますが、皆さんの声をしまバスにも伝えていき、少しでも生徒の皆さんの役に立てるよう、今後とも取り組んでまいりたいと思います。市営バスについては、現状では難しいと考えております。	産業振興課	補足なし
9	大島北高	外灯について	外灯が少なく、夜道が危険なので増やしていただけないか。	外灯は大きな道路は県や市が管理しており、集落内の道路については、集落や町内会などが設置を行っております。詳しい場所を教えていただければ、市ができることはしっかりとやっていきたいと思います。	総務課 笠利地域総務課	補足なし
10	大島北高	交流をする場について	遊べる所を増やして欲しい。(例えば、ラウンドワン、動物園、ボール禁止の公園が増えているのでボールが道路に出ない柵がある公園、パチンコ店が多すぎる) 世代を超えて、共通の趣味などを共有できる場所があるといい。(例えば手芸好きな人が気軽に集まって、若者が教えたり、年配の人に教えてもらったりと交流がしたい。新たな発見や成長、方言の継承にも繋がるかも。)	キッズスペースについては、民間事業所と連携して市内各所に設置を行っているところですが、公園のボール遊びなどについて、新年度からルール決めを行いながら、柔軟に公園を利用できるように取り組んでいきたいと考えております。生涯学習講座を名瀬・住用・笠利で行っておりますので、多世代交流ができるかと思います。笠利においては、農村環境改善センターをサロンのように使っていただけないかなど、今後の検討課題とさせていただきます。 (笠利事務所長)生涯学習講座は農村環境改善センターに移転しますが、笠利公民館の講座室や図書室はそのまま利用できますので、これまで同様、公民館を自習室として活用いただければと思います。	産業振興課 地域教育課	補足なし
11	大島北高	不登校について	不登校生徒が、学校以外に学習できたり交流ができる施設ができてほしい。不登校生徒をもつ親が、他の親と話すセミナーを作ってほしい。	現在、文部科学省は「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」で、教育支援センターの機能強化や、校内教育支援センターの設置促進、多様な学びの場、居場所の確保等を推進しております。本対策は、御意見をいただいたとおりと認識しております。本市においての最大の課題は人材の確保です。教育支援センターの職員は、児童生徒に対して、きめ細やかな対応が必要となります。誰でもいいという訳ではありません。人材確保も含めて、笠利地区の学校とも協議し、よりよい方策を考えていきたいと思ます。	地域教育課	

No.	地区	項目	意見要約	市長回答 (NO11以降については所管課回答)	所管課	所管課補足
12	大島北高	笠利公民館について	笠利町にある笠利公民館が閉館と聞いた。代わりとなる勉強することができる場所を提供してほしい。	今年度に引き続き来年度も笠利公民館2階講座室にて自習することが出来ます。 なお、このたび、奄美市笠利公民館は老朽化が進んでいるため、より安全で快適な環境を提供するために、生涯学習講座及び会議等利用施設を一部移転することとなりました。 移転先:奄美市笠利農村環境改善センター 移転時期:令和7年度 使用できる施設:「農事研修室」「和室2部屋」「ホール」 また、奄美市笠利公民館で来年度も引き続き利用できる施設は下記の通りです。 使用できる施設:「図書室」「キッズルーム(和室)」、「自習(2階講座室)」 移転に伴い、皆様にはご不便をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。	地域教育課	
13	大島北高	介護施設などについて	介護やリハビリ施設、訪問介護などが名瀬や龍郷に集まっていて、親が大変そうにしている。北部にもあって欲しい。子供用の車いすの製造業者が県本土にあるため、母が鹿児島に日帰りで行っている。奄美に作れないか。または定期的にきてくれるとか。	ご質問の内容から、親の介護や子どもの介助等で気苦労の絶えない親御さんの心中を察するとともに、そのことを気にかけている生徒さんの優しさを立派に思うところです。 まず、笠利地区の介護事業所についてですが、ご質問いただいたとおり、名瀬や龍郷と比較すると少ないのが実情です。 少し難しい話になりますが、市町村は必要なサービスの種類や必要量の見込みを予測した介護保険事業計画を作成することが義務づけられています。この計画がないままサービスを提供すると、予算不足に陥ったり、介護保険料が上がったりして、サービスを利用できなくなるような不利益を生じさせてしまう可能性があるからです。つまりは、需要と供給のバランスを考慮しながら事業所の数を決める必要があるということです。 それからもうひとつ、計画の中で「笠利地区に介護事業所が必要」となった場合に懸念されることが、その土台となる介護人材の不足です。 介護分野の人材の不足の状況は、少子高齢化が進む中、ますます厳しさを増しており、本市においても、訪問介護員をはじめとする人材不足や介護職員の高齢化は深刻であり、安定的な介護サービスの提供体制に影響するほどに至っています。 このようなこともあり、すぐすぐの対応は難しいところですが、必要な人に必要なサービスを届けることができるように引き続き取り組んでいきたいと思います。	いきいき健康課	
				次に、子供用の車いすの製造業者についてですが、こちらもご質問いただいたとおり、県本土に数か所程度しかなく、当市には営業所が1か所あるものの、製造はできません。たまたま製作が数件重なった場合等に来てもらえることがある程度と聞いています。 事業所を奄美に作れないかということに関しましては、担当課の方で実際に製造業者数か所に確認をしておりますが、需要が増えない限りはなかなか難しいという回答で、定期的に来てもらうことについても同様な回答でした。 相手側の意向もあるので、現在のところは難しいのですが、貴重なご意見として、実現に向けて今後働きかけていくとともに、少しでも負担を軽減できるような、何らかの対応ができないか考えていきたいと思います。 なお、笠利地区の介護に関する相談は、いきいき健康課内の笠利地域包括支援センターで、また、障害児用車いすの補助等に関する相談は、同じく、いきいき健康課内の福祉係で受け付けておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。	いきいき健康課	